



練馬区議会議員 第五十九代議長

関口 かずお



- 常任委員会 企画総務委員会 委員長
- 特別委員会 災害対策等特別委員会 委員
- 各種委員会 民生委員推薦会

ご相談は… 関口かずお 事務所
〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8
Tel / Fax : 3998-1752

母を、おもい子育て支援を、かんがえる

とある回転寿司店でひとり食事をしていると、「きんめだい」という

子どもの声が聞こえた。声の主は、向かいの席に母とふたり座っている、3、4歳の男の子だ。

「はい、金目鯛。さび抜きだよ。」「いただきます。」

回転寿司という形ではあるが、目の前にショーケースがあり、カウンターに座り、職人と会話をしながら寿司を食べる、というスタイルは、「寿司屋」のものである。子どもが幼いころからこうして人と会話をしながら食べることを、を経験させるのはよいことだなとおもいながらふたりを見ていた。

ときどき、母と子は顔を見合わせながら、次は何を頼もうか、おいしいね、と話している。母も子もとても穏やかな顔をして、その席は、とても温かく、やわらかい空気に満ちている。ふいに、自分の母を、おもった。

私が幼いころ、家業の自動車整備業では、若い整備工たちが、住み込みで働いていた。まだ親の恋しい歳で、食べ盛りの整備工たちの食事を作り、身の回りの面倒を見るのは、母。母は、人が訪ねてくれば、家にながらせ、帰りは、何かしら持たせて手ぶらで帰らせることがなく、相談事さえあれば、決して楽ではない自分ながらいくばくかの都合をつけ、晩年まで

それは変わらなかつたようだ。ようだ、というのは、私がそれを、母の口から直接聞いたことがないからで、母の葬儀に家族も知らない人が幾人も参列し、母にこうしてもらった、とおれを言うっていくので、初めて知ったようなわけだ。

後に議員になったとき、母が母の人柄で培ってくれた人とのつながりが、私が政治の世界に出ることを後押ししてくれたのだ、と、心の底からそうおもった。そしてそんな母に育てられたからこそ、自分の、人としての、そして政治家としての「やり方」があるのだと、おもう。

母と子、父と子、親子が時間を共有できる期間は、実はとても短い。

その中で、あの寿司店の母と子のような、あたたかく心に残る時間を、どれくらいもつことができるか。それが、子の人生の豊かさにつながる、とおもう。

親のすることを間近で見たり、共に行事に参加したり、食事をしたり・・・そんな経験をつむことで、子はだんだん、大人になっていく。そしていつか必ず、親から離れ、自分を持つときがくる。それが、子育て、というものだろう。

保育園の「待機児童」という言葉が出てくると、必ずといっていいほど、「解消されるべきもの」として扱われる。「保育園に入れないこと」が、子どもにとって「困ること」である、という印象すら、ある。しかし少し角度を変えて見てみれば、保育園児たちにとって保育園で過ごす時間は、「親と過ごせるまでの待機時間」なのではないか。保育園児もまた「待機児童」なのである。この「待機児童」を、どう考えるか。

親と子が、共に過ごせる時間を、無理なくとれるような政策こそが、今本当に求められる、子どものための、子どもの立場に立った「子育て支援」であろう。

少し冷たい、早春の朝の空気の中、台所に立つ母の背中を、おもいだす。

子どものための、子どもの立場に立った「真の子育て支援」を目指して!



【子ども関連部署が教育委員会に一元化されます】

ご存知ですか?

放課後の校庭で元気に遊ぶ子どもたち。見た目は皆同じ小学生なのに、組織や法律によって、3種類の違った対応がなされているのです。

今後、目指していくこと

学童クラブ、放課後子どもプランも、同じ部署で扱われます。制度や運営方法を、もっと子どもの立場に立ったものに変更し、学校、学童クラブ、学校応援団が、真に連携できる体制を作ることが、子どもの成長を見守り、支えることにつながります。

【保育所待機児童対策を充実します】

ご存知ですか?

0歳児一人当たりの保育経費は月額約47万円（年額約564万円）。区立保育園に在籍する0歳児だけでも年間約36億円もの公費負担となっています。

今後、目指していくこと

保育園を利用する必要がある家庭が、きちんと利用できるよう施設の拡充を図ることは大切です。しかし、0歳児保育については、例えば養育費を公費助成し、家庭で親が子育てに専念できる環境を整えるなど、親子が共に過ごせる時間を充実させることもまた、子育て支援として検討すべきです。

地域の力で震災や自然災害に常に備える「災害に強いまちづくり」を推進します!



元気な高齢者がこれからの練馬区を支えます!



高齢者が、元気に安心して生活できる「ずっと住み続けたいまち」を目指して!

【高齢者施設の整備拡充をはかります】

ご存知ですか?

70万区民の約14%が、70歳以上となり、練馬区も本格的な高齢化社会を迎えています。

今後、目指していくこと

在宅介護を支援するための仕組みも、充実してきていますが、「がんばりすぎない介護」のためには、特別養護老人ホームをはじめとする、介護サービス拠点の拡充が必要です。介護を必要とする人とその家族が、本当に必要なサービスを、本当に必要なタイミングで利用するための、仕組み作りも併せて検討すべきです。



寝るば!



転ぶば!



風邪引くば!

東日本大震災から1年。あの時を忘れず、改めて災害に備える心構えを!

- ① 地域防災計画・防災ハザードマップの見直し、周知
- ② 区民防災組織の強化、災害時要援護者への対応システムの確立
- ③ 区内避難拠点などの備蓄物資の拡充
- ④ 帰宅難民対策として、区立施設の使用、食料・飲料水の備蓄推進

まず、知ること。そして、備えること。一人ひとりが「自分のこと」として取り組むべき時がきています。